

<事業名> 円山川下流域ラムサール条約登録 10 周年記念-講演会と湿地探索

団体名	日本コウノトリの会
所在地	豊岡市
代表者名	佐竹 節夫

事業内容	<p>日時 令和4年7月16日・17日 場所 じばさん TAZIMA・田結湿地 内容 下記1, 2のとおり</p> <p>1 第一日目 現地踏査・評価会 (8:30~12:00) 午後の講演会講師とハチゴロウの戸島湿地スタッフ・豊岡市コウノトリ共生課職員・市内高校生(県事業の市内高校生によるラムサールエリアの調査・保全活動のメンバー・近大付属豊岡高等学校「鶴部」・豊岡市コウノトリKIDSクラブ)等で、ラムサールエリア拠点施設であるハチゴロウの戸島湿地の現状を評価しながら、魚類等生息状況調査活動を行った。 講演会 (14:00~17:00) 下記の講師による講演を聞いて学び、質疑応答でさらに深めた。 ・近畿大学名誉教授:細谷和海氏「淡水魚から見たラムサール登録湿地としての円山川」 ・山階鳥類研究所副所長:尾崎清明氏「希少水鳥類の保全―トキ・ヤンバルクイナなど―」 ・魚類研究者:キム・ウンジン氏「世界の流れ(SDGs)とコウノトリ野生復帰」</p> <p>2 第二日目 田結湿地現地探訪会 (9:00~12:00) ラムサール登録エリアである田結地区の湿地を、アンガールズ(田結地区案内グループ)等の案内で、約1.5kmの湿地を歩きながら生物等を観察し、触れ合い、交流する。</p>
	地域
事業の効果	<p>(1) 団体(組織)内の効果 久しぶりの大きなイベントだったので、広範な方に呼びかけ、事務局員全員で手分けをして準備してきた。市民等の反応は良く、会の活動の再認識にもなった。</p> <p>(2) 地域への波及 当該事業の目的は、普段はほとんど意識していないラムサール条約登録の意義を啓発し、行動を触発する事であり、そのためにできるだけインパクトのあるものにしたかった。結果、参加者数は予想以上の約160名で会場の熱気もあり、久しぶりに元気の出る催し物になったように思う。また、講演内容を初めて知った参加者も多く、自分たちでさらに勉強会をしたいとの意向も表明された方もある。 また田結湿地探訪会では、地元アンガールズの方々が案内だけでなく、昼食用のワカメ汁とご飯を全員に準備し提供された。精一杯あたたかく迎えようとの心意気に感謝している。</p>

	月 日	実施内容	場 所	参加人数
事業経過	7月16日	戸島湿地踏査・魚類等調査	ハチゴロウの戸島湿地	42人
	7月16日	講演会	じばさん TAZIMA	159人
	7月17日	田結湿地探訪会	田結湿地	45人
協働の相手	・豊岡市			
今後の課題等	<p>(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等 当会は、ラムサール条約登録地の中核施設を事務局としているので、今後もラムサールの意義を常に自覚しながら活動を発展・継続していきたい。</p> <p>(2) 地域活動を拡大していくための工夫等 当会の活動の基本は、コウノトリ野生復帰を市民の立場で取り組んでいくことである。そのため、活動は豊岡市内に止まらず、広く全国・東アジアに視野を向けている。今年度では、香美町において人工巣塔の設置（既に民間により設置済み）やビオトープの造成等を行っているので、地元の方々と連携して取り組みたい。また、韓国との連携も具体的にスタートさせたい。とまかく、コウノトリ野生復帰の基本をブレず、具体的な活動を誠実に積み重ねていくことが重要と考えている。</p>			



4年7月16日 調査の様子



4年7月16日 調査の様子



4年7月16日 講演会



4年7月17日 生物観察